

式 辞

千畳が原の学び舎にも穏やかな春の訪れが感じられる今日の佳き日に、多くの御来賓の皆様方の御臨席を賜り、下関商業高等学校第百三十八回卒業証書授与式を挙行できますことは、関係者一同、この上ない喜びであり、厚くお礼を申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました一五三名の皆さん、卒業おめでとうございます。高校生活の三分の二がコロナ禍にあり、様々な制約がある中、創意工夫をしながらハードルを乗り越え、晴れて卒業の日を迎えられた皆さん一人ひとりに祝福と賞賛を送りたいと思います。

私が皆さんと共に過ごした時間は一年間だけでしたが、体育大会や下商祭、部活動で躍動する姿や、希望進路に向けて一生懸命努力している姿が思い出されます。そんな皆さんも、いよいよ明日からは、就職・進学とそれぞれが選んだ道を進まれます。夢や志を大きく持ち、

自分の持つ可能性を信じて、真っすぐに歩んで行って欲しいと思います。

さて、今の時代は、変化の激しい時代、先の見通せない時代と言われます。確かに、近年の新型コロナウイルスの世界的な流行や、ウクライナ、中東地域における大規模な紛争、気候変動やAIに象徴される急速な科学技術の進歩などを見ると、大きな時代の変化を感じますし、未来を楽観視することは難しいと思います。

こうした激動の時代を生きていく皆さんには、常に挑戦する気持ちを持ち続けて欲しいと思います。夢や目標を追い求めれば、必ず困難に直面します。そして、失敗すれば恥ずかしい気持ちや情けない気持ちになりますし、再び挑戦することが恐ろしくなります。しかし、失敗を恐れて挑戦することをあきらめてしまえば、それ以上、成長することはできません。

本田技研工業の創始者、本田宗一郎さんは、「私の最大の光栄は、一度も失敗しないことではなく、倒れることに起きるところにある」と述べています。また、パナソニックの創業者、松下幸之助さんは、「成功とは成功するまでやり続けることで、失敗とは成功するまでやり続けない

ことだ」と述べています。日本を代表する企業を築き上げた人でさえ、その挑戦の大半は失敗でしたが、あきらめずに挑戦を続けたことで成功を収めたことが分かります。

卒業は、皆さんにとって新しいステージの始まりです。

そして、そこには、未知の世界への挑戦が待っています。失敗を恐れずに、夢や目標に向かって挑戦を続けてください。きっと素晴らしい未来が待ち受けていると思います。

終わりにりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。これまでの道のりには御

苦労も多かったことと思いますが、今日の佳き日を迎え、立派に成長されたお子様の姿に、感慨もひとしおのことと存じます。教職員一同、心よりお喜びを申し上げます。

結びに、卒業生の皆さんの未来に幸多からんことを祈

念いたしましたして、式辞といたします。

令和六年三月一日

下関商業高等学校長 安村 祥二郎